

東下り 傍線注釈

□ 語訳をもとに傍線注釈をしなさい。(単語の切れ目にスペースを入れている部分もある。)

(1)昔、男ありけり。

(2)その男、身をえうなきものに思ひなして、

「京にはあらじ。

(3)東の方に住むべき国求めに」とて行きけり。

(4)もとより友とする人、一人二人して行きけり。

(5)道知れる人もなくて、惑ひ行きけり。

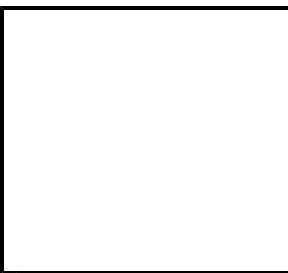
(6)二河の国ハ橋といふ所に至りぬ。

(7)そこをハ橋といひけるは、水ゆく川の蜘蛛手なれば、

橋を八つ渡せるによりてなむ、ハ橋といひける。

けり
けり
ける
けら

この語は
どのように
訳されているか?



その単語 자체が
訳されて
いない語は?



ほとびにけり。

(12)と詠めりければ、みな人、乾飯の上に涙落として

はるばるきぬる旅をしそ思ふ

(11)唐衣きつつなれにしつましあれば

と言ひければ、詠める。

五文字を句の上に据ゑて、旅の心を詠め。

(10)それを見て、ある人のいはく、「かきつばた、といふ

(9)その沢にかきつばたいとおもしろく咲きたり。

(8)その沢のほとりの木の陰に下りて、乾飯食ひけり。